

株式会社アムスク
2009年3月期決算説明会資料

於：野村證券日本橋本社

2009年5月25日

Contents

- I . 2009年3月期決算の概要
- II . 2010年3月期の業績見通し
- III . 今後の施策

- I . 2009年3月期決算の概要
- II . 2010年3月期の業績見通し
- III . 今後の施策

09/3期 決算(連結)P/L概要

たな卸資産の評価減の増加あるも、赤字幅は縮小

(連結)

単位:百万円

	08/3期 実績	09/3期 実績	09/3期 計画	計画比	前期比
売上高	26,477	21,668	21,680	△12	△4,809
在庫評価減	103	230	186	44	127
販売管理費	2,543	2,318	2,411	△93	△225
営業利益	435	△296	△350	54	△731
経常利益	194	△417	△520	103	△611
当期利益	82	△795	△880	85	△877

※計画値は2009年1月30日付にて開示致しました業績の予想数値です

- ・売上高は、世界的な景気後退局面から、当社の主力商品であるデジタル家電及び車載エレクトロニクス機器市場が想定を上回る縮小となったほか、安定的な売上を見込んでいた産業機器分野においても設備投資の抑制から受注が減少し前期比で大幅な減少となりました。
- ・利益面では売上高の減少に伴う営業利益の縮小、在庫評価減の計上、繰延税金資産の全額取崩し(155百万円)等の損失計上の影響から前期比で大幅に減少となりましたが、期末の為替レートが想定より円安に推移したことなどのプラス要因もあり計画比では改善しました。

08/3期 vs 09/3期

粗利益率の悪化要因は、為替と在庫の評価減

(連結)

単位:百万円

	08/3期 実績	09/3期 実績	前期比
売上高	26,477	21,668	△4,809
粗利益	2,979	2,022	△957
粗利益率	11.2%	9.3%	△1.9
販売管理費	2,543	2,318	△225
営業利益	435	△296	△731
経常利益	194	△417	△611
当期利益	82	△795	△877

粗利益額低下の内訳

- ・売上高の減少による粗利益額目減り
△539百万円
- ・円高による外貨建売上高の粗利益額目減り
△142百万円
- ・収益性の低下が見込まれる在庫の評価減
△230百万円

当期利益悪化の内訳

- ・繰延税金資産の取り崩し
△155百万円
- ・在庫の評価損(棚卸し資産会計基準の変更)
△94百万円
- ・事業再構築費用
△43百万円

09/3期 決算(連結)B/S概要

資産圧縮により自己資本比率は前期末水準を大幅改善(40.7%→55.4%)

単位:百万円

	08/3期	09/3期	前期比		08/3期	09/3期	前期比
流動資産	11,892	6,993	△4,899	流動負債	7,388	3,376	△4,012
現金及び預金	798	630	△168	買掛金	1,872	693	△1,179
受取手形及び売掛金	5,581	3,126	△2,455	借入金	4,878	2,228	△2,650
たな卸資産	4,722	2,929	△1,793	賞与引当金	115	46	△69
その他	643	310	△333	その他	522	407	△115
貸倒引当金	△8	△2	6	固定負債	9	37	28
繰延税金資産	155	0	△155	負ののれん	-	31	31
固定資産	751	654	△97	その他	9	6	△3
有形固定資産	236	32	△204	負債合計	7,397	3,414	△3,983
無形固定資産	276	195	△81	株主資本	5,164	4,270	△894
投資不動産	-	196	196	評価・換算差額等	△22	△37	△15
投資その他の資産	238	229	△9	少数株主持分	103	0	△103
資産合計	12,642	7,647	△4,995	純資産合計	5,245	4,233	△1,012
				負債純資産合計	12,642	7,647	△4,995

【流動資産】

- ・売掛金は売上高の減少に伴い大幅に減少しました。
- ・たな卸資産は仕入抑制による適正水準の維持、保守的な在庫評価減の実施などにより減少しました。
- ・繰延税金資産は当社の業績動向を踏まえ保守的な観点から全額を取崩しました。

【流動負債】

- ・買掛金は在庫適正化の目的から仕入を抑制した結果、減少しました。
- ・借入金は主に売上債権と在庫の減少から運転資金需要が減少し大幅に減少しました。

【純資産】

- ・当期純損失により、株主資本が減少しました。
- ・少数株主持分は2008年9月に少数株主より海外現法2社の株式持分を買い取り、残高がなくなりました。

09/3期 決算(連結)キャッシュフロー概要

営業キャッシュフロー2期連続黒字を達成。有利子負債削減を継続

単位:百万円

	08/3期	09/3期		08/3期	09/3期
I 営業活動によるキャッシュフロー			III 財務活動によるキャッシュフロー		
税金等調整前当期純利益	203	△554	借入金の純増減額(純減少額:△)	△1,840	△2,633
減価償却費	104	106	配当金の支払額	△76	△76
売上債権の増減額(増加:△)	618	2,436	その他	△7	△22
たな卸資産の増減額(増加:△)	138	1,781	小計	△1,923	△2,731
仕入債務の増減額(減少:△)	734	△1,169	IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△54	△7
その他	△72	131	V 現金及び現金同等物の増減額	△160	△168
小計	1,725	2,731	VI 現金及び現金同等物の期首残高	959	798
II 投資活動によるキャッシュフロー			VII 現金及び現金同等物の期末残高	798	630
有形固定資産の取得による支出	△27	△8			
無形固定資産の取得による支出	△31	△22			
投資有価証券の売却による収入	112	14			
子会社株式取得による支出		△112			
投資不動産の取得による支出		△6			
その他	37	△25			
小計	91	△159			

- ・営業キャッシュフローは売上債権及び在庫の減少により大幅に改善しました。
- ・仕入債務の減少は在庫適正化の目的から仕入の抑制を行なったためです。
- ・子会社株式取得による支出は2008年9月にシンガポール及び香港現法の少数株主から持株分の買取をおこなったものです。
- ・営業キャッシュフローにおける資金増加分の大半を財務キャッシュフローの借入金返済原資として充当しております。

09/3期 決算 分野別売上概要

情報・通信/自動車比率下がるも、産機が堅調

売上高合計217億円 %は構成比率

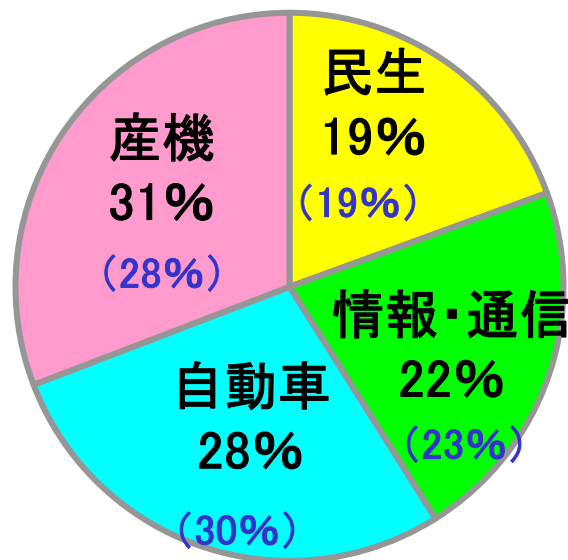
(%)は前年同期

【産業機器】

医療機器、計測機器
半導体テスター、製造装置
その他産業機器

【自動車】

エンジンコントロールユニット
エアバック、ABS、ボディ
カーオーディオ・カーナビ



【民生】

液晶TV
DVDプレーヤー、レコーダー
デジタル・スチル・カメラ
ゲームコントローラー等

【情報・通信】

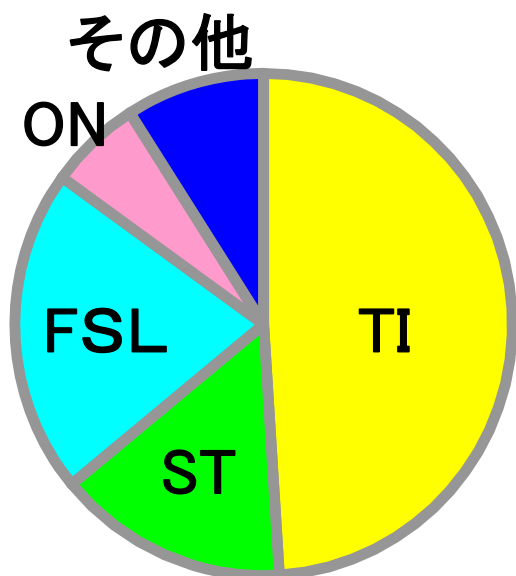
デジタルTVチューナー
パーソナル・コンピュータ
携帯電話等

- 【民生】 デジタル家電分野は、全体的に低調でしたが、家庭用ゲーム機器向けカスタムICが計画を上回りました。
- 【情・通】 TVチューナーが前年同期を下回りましたが計画通りに推移しました。
- 【自動車】 車載電装、アクセサリ（カーナビ、カーオーディオ）が、下期より急激に減少しました。
- 【産機】 半導体設備機器や計測機器の需要が落ち込みましたが、医療機器、家庭用防災機器が計画を上回りました。

09/3期 決算 メーカー別売上概要

TIを中心とするアナログとマイコンの幅広いラインナップで顧客のアプリケーションをサポート

売上高合計217億円



T I: テキサス・インスツルメンツ

S T: STマイクロエレクトロニクス

F S L: フリースケール・セミコンダクタ

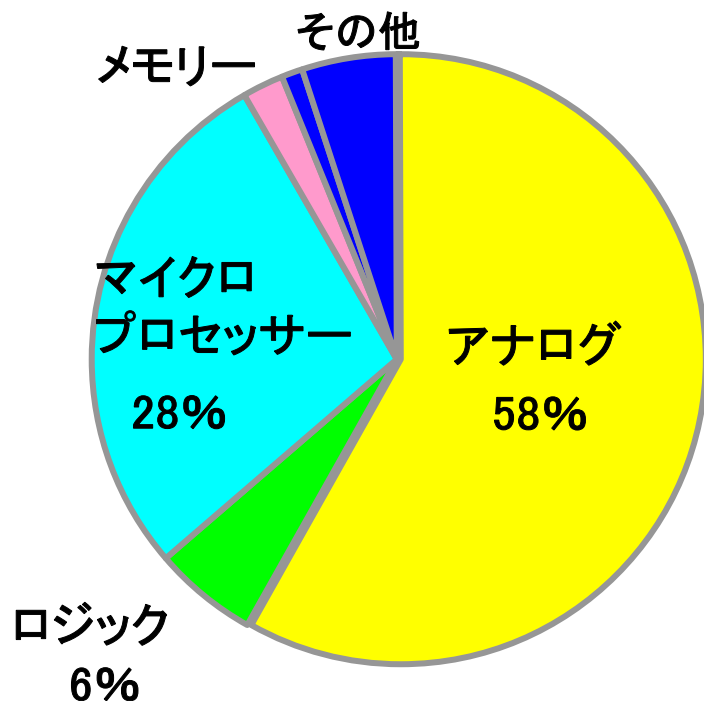
O N: オン・セミコンダクタ

【 T I 】	家庭用ゲーム機器向けカスタムIC、医療機器が堅調に推移しました。
【 S T 】	前年堅調であったTVチューナーの減少を見込んでいましたが、需要が計画を上回りました。
【 F S L 】	上期は北米向けのエンジンコントロールユニットが堅調に推移しました。下期から需要が大幅に落ち込みました。
【 O N 】	車載機器、モバイル、スーパーコンピュータ向けが堅調に推移しました。
【その他】	iPodアクセサリ商品等、新規マーケットに参入が出来ました。

09/3期 決算 品目別売上構成

アナログ & マイコンの技術サポート力が当社の強み

売上高合計217億円 %は構成比率



分類	特徴	小分類	主な用途
アナログ	デジタルに対し、連続した信号を扱うIC	チューナー オペアンプ コンバーター インターフェース レギュレータ ディスプレイ	電源装置 通信機器 計測機器 AV機器 制御機器
ロジック	汎用理論素子、デジタル回路を構成する標準IC		計測機器 コンピュータ OA機器
マイクロプロセッサ	コンピュータの頭脳部分で、機器の中に組み込んだ形で使用されるIC	8bit 16bit 32bit	自動車機器 通信機器 アミューズメント機器
メモリー	記憶素子IC	DRAM、FLASH EEPROM	コンピュータ

【アナログ】

アナログ・デジタル変換回路や、電源等、電子機器に欠くことのできない製品群を有し、民生から産業機器まで裾野の広い顧客をサポートできるのが、当社の特徴です。

【マイコン】

お客様の設計段階から、当社の技術力をベースにサポートできるのが強みです。サードパーティー（開発委託会社）とのコンビネーションで、細かなサポートが可能です。

- I . 2009年3月期決算の概要
- II . 2010年3月期の業績見通し
- III . 今後の施策

10/3期の業績見通し

下期は黒字転換を見込む

単位:百万円

	2009/3期	2010/3期(計画)		
	実績	上期	下期	通期
売上高	21,668	7,500	8,500	16,000
在庫評価減	230	50	51	101
販売管理費	2,318	950	839	1,789
営業利益	△296	△220	70	△150
経常利益	△417	△260	20	△240
当期利益	△795	△290	10	△280

- ・09年度上期は、08年度からの事業再構築の途上段階にあり、全社的なコスト構造及び経費の見直しを継続します。主な施策として、さらなる人員削減、役員報酬カットの継続、定期昇給の停止、賞与のカット、本社賃貸事務所の一部解約及び営業所の移転を第2四半期までに実施予定です。08年度実績から、5億円の販売管理費の削減を見込んでいます。
- ・在庫は適正化が進み、評価減は減少する見込みです。
- ・09年度下期は、業績回復による収益改善と、上期のコスト構造見直し効果から黒字への転換を見込んでおります。

10/3期の下期黒字化に向けた経費抑制策

固定費の削減による、収益改善を見込む

1. 人件費の削減

- ・役員報酬カットの継続(代表取締役 $\Delta 30\%$ 、取締役 $\Delta 20\%$ 月額報酬CUT)
- ・定期昇給の停止、賞与のカット
- ・収益規模に見合う更なる人員削減

2. 固定費の削減

- ・本社賃貸事務所の一部解約(3フロア→2フロア)
- ・営業所移転

10/3期の予想B/S 強い財務基盤の維持強化！

財務の健全化により自己資本比率50%以上を維持

単位：百万円

	09/3期 (実績)	10/3期 (計画)	前期比		09/3期 (実績)	10/3期 (計画)	前期比
流動資産	6,993	6,815	△178	流動負債	3,376	3,370	△6
現金及び預金	630	703	73	買掛金	693	978	285
受取手形及び売掛金	3,126	3,700	574	借入金	2,228	1,900	△328
たな卸資産	2,929	2,235	△694	賞与引当金	46	80	34
その他	310	179	△131	その他	407	413	6
貸倒引当金	△2	△2	0	固定負債	37	29	△8
繰延税金資産	0	0	0	負ののれん	31	23	△8
固定資産	654	574	△80	その他	6	6	0
有形固定資産	32	28	△4	負債合計	3,414	3,400	△14
無形固定資産	195	128	△67	株主資本	4,270	3,990	△280
投資不動産	196	193	△3	評価・換算差額等	△37	0	37
投資その他の資産	229	225	△4	少数株主持分	0	0	0
資産合計	7,647	7,390	△257	純資産合計	4,233	3,990	△243
				負債純資産合計	7,647	7,390	△257

【流動資産】

・売掛金は下期からの販売回復に伴い増加予定です。

【流動負債】

・たな卸資産は販売回復に伴う仕入増加はあるものの保有月数の改善から減少予定です。

・買掛金は下期からの販売回復に伴い増加予定です。

【自己資本比率】

・借入金は販売回復に伴う増加運転資金をたな卸資産の圧縮で吸収し減少する予定です。

・自己資本比率は54%を予定しております。

たな卸資産の推移

在庫保有月数 は大幅改善、引き続き1.6ヶ月(月商倍率)を維持

	2007/3期	2008/3期	2009/3期	2009/9期	2010/3期
	実績	実績	実績	計画	計画
売上高	28,453	26,477	21,668	7,500	16,000
たな卸資産	4,964	4,722	2,929	2,500	2,200
在庫保有月商倍率	2.1ヶ月	2.2ヶ月	1.6ヶ月	2.0ヶ月	1.6ヶ月

在庫保有月商倍率 = たな卸資産 ÷ 平均月商

顧客所要情報の更新頻度を高め、適正在庫水準を実現 1.6ヶ月を維持

- ・ サプライヤー別の在庫管理の徹底
 - 製造中止品在庫、過剰在庫の消化計画
- ・ 発注枠管理による仕入れ計画の管理徹底
 - 発注残 > 仕入計画 仕入計画をオーバーする発注は原則認めない

借入金の推移

有利子負債の削減 期末DELレシオ50%未満を目標

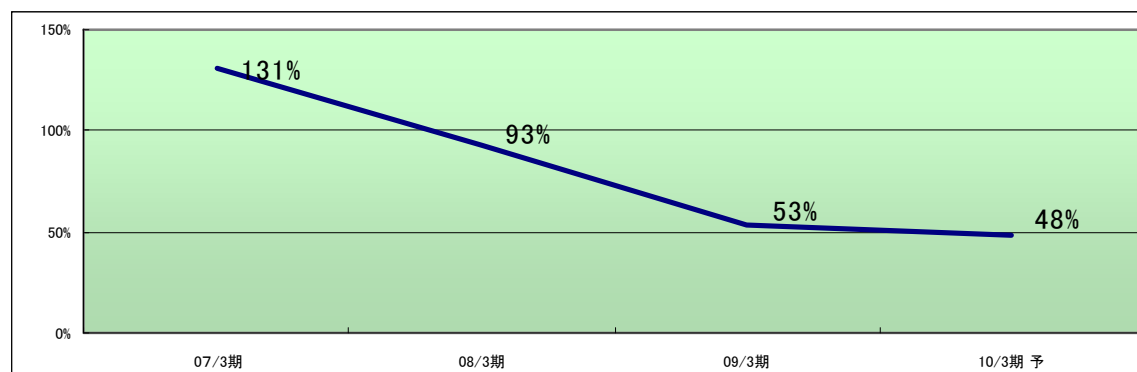
(連結)

(単位:百万円)

	07/3期	08/3期	09/3期	10/3期 予
借入金	6,906	4,877	2,229	1,900
純資産	5,269	5,244	4,233	3,990

(DELレシオ)

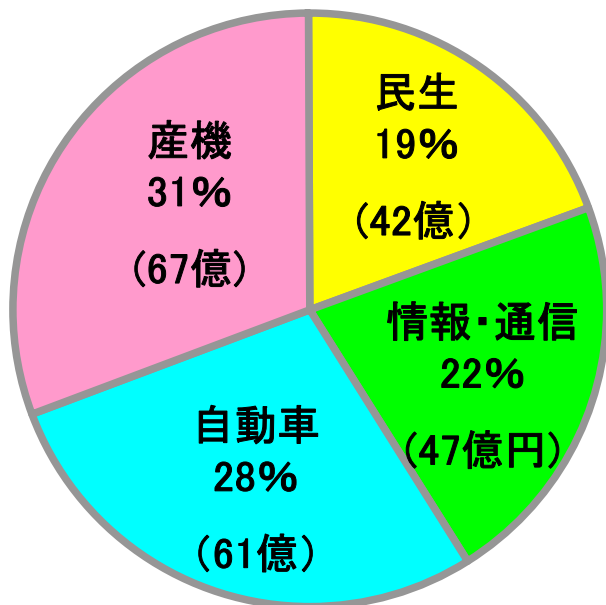
DELレシオ
= 借入金 ÷ 純資産



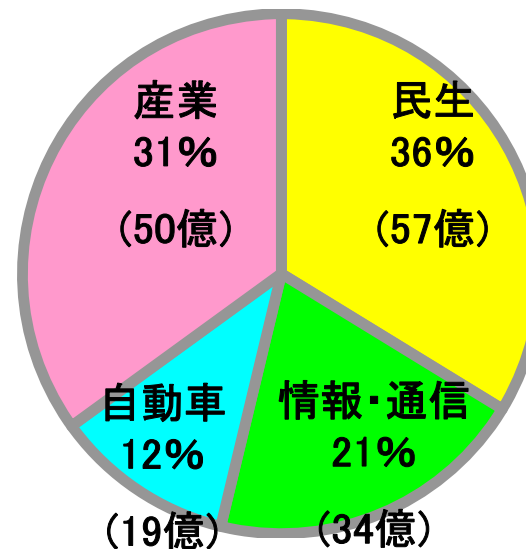
- ・ 在庫の削減による資金効率の向上により、有利子負債比率の適正化を実現
- ・ 本格的な市況の悪化に備え、健全な財務を維持

10/3期 分野別売上見込み

マーケット構成が大きく変化するなか、民生に商機を求める



08年度売上高合計 (217億円)



09年度売上高合計 (160億円・計画)

【民生】	アミューズメント(遊戯機器)向け、カスタムICの拡大が見込まれます。アジア・北米向け液晶TV・DVDが足元で回復を始めています。
【情・通】	TVチューナーはアナログからデジタルの切替による価格の低下から、減少となる見込みです。
【自動車】	自動車分野は、FSLの取り扱いがなくなることから大幅に減少しますが、既存の商材で「環境」、「省エネ」、「カーインフォテイメント」向けに売り込みを開始しています。
【産機】	光電スイッチの立ち上がりがあるも、半導体製造装置等は更に減少する見込みです。

- I . 2009年3月期決算の概要
- II . 2010年3月期の業績見通し
- III . 今後の施策**

Ⅲ. 今後の施策

1.10/3期 業績達成に向けて

2.基本事業戦略のポイント

2.-1.製品戦略

2.-2.エリア戦略

2.-3.マーケット戦略

1.10/3期 業績達成に向けて

市場・業界環境

- ・世界景気の一層の下振れ懸念から、国内外の需要の冷え込みが継続すると想定されますが、半導体需要は2009年下半期から回復・増加する見方もあり、一定の回復が期待されます。
- ・フリースケール・セミコンダクタ・ジャパンとの販売代理店契約解消による売上高減少の、早期リカバー実現を目指します。

基本方針・戦略

- ・生産性の高い事業分野、製品を選択し、リソースを集中します。
- ・当社の強みであるアナログ・マイコン製品の拡販と技術サポートに原点回帰し、この分野を徹底して強化します。
- ・減量経営は避けられず、更なるスリム化により、収益体質の改善を図ります。

2.基本事業戦略のポイント

2-1. 製品戦略

<アナログ>

アナログ顧客の裾野の広さを活用し、国内中堅顧客の掘り起こし、新たな販路の開拓を行います。

<マイコン>

- ・STM32シリーズの技術サポート体制を確立します。
⇒医療機器、計測機器向けdesign-inに注力します。
- ・TIのRF系マイコンファミリーのラインナップ充実による販売体制を強化します。
⇒リモートコントロールの新規案件design-winに注力します。

2.基本事業戦略のポイント

「環境」「省エネ」市場向けに、高効率・低消費電力の半導体を提案します。

エネルギー削減の為にお客様が軽量化、高効率電源を実現できる半導体の販売に注力します。

 TEXAS INSTRUMENTS

 STMicroelectronics

 ON Semiconductor

Bellnix

CREE 

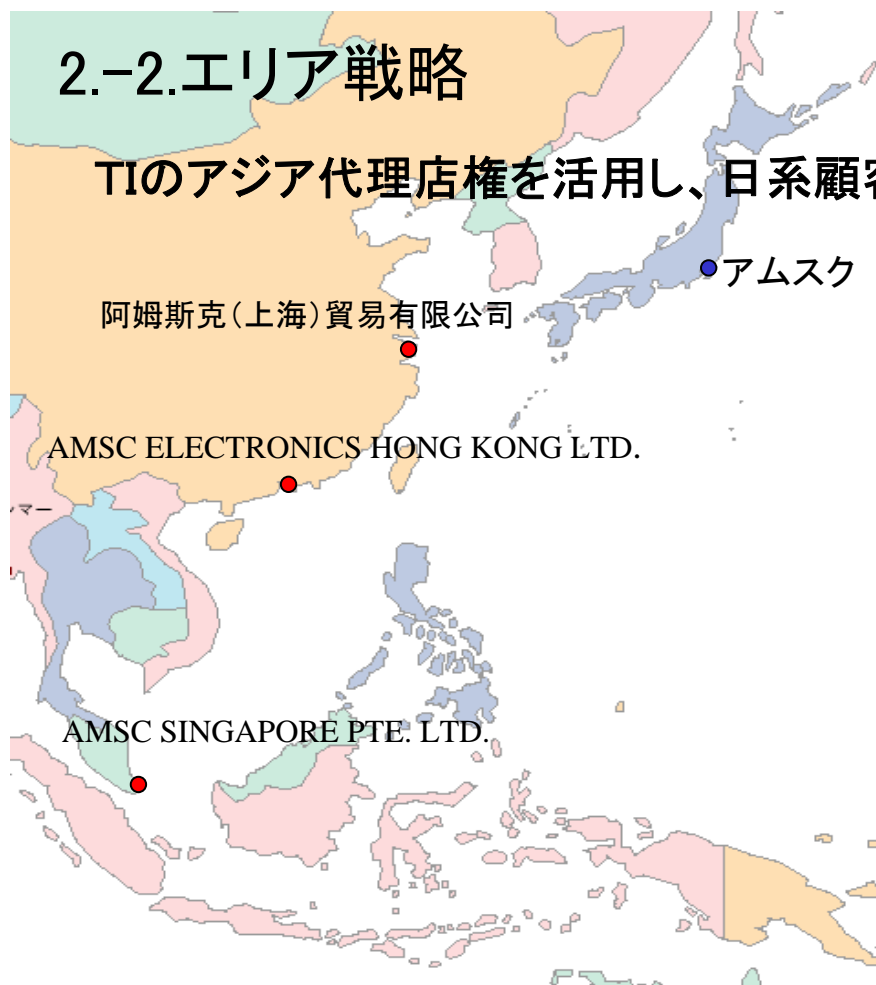
 SEMTECH

- * デジタル電源
- * ON抵抗低減の電力増幅素子
- * 力率改善を目指した電源
- * 低電圧、低電力のマイコン・DSP
- * ポータブル機器向け統合パワーマネジメントIC
- * SiCデバイス(産業機器用電源)

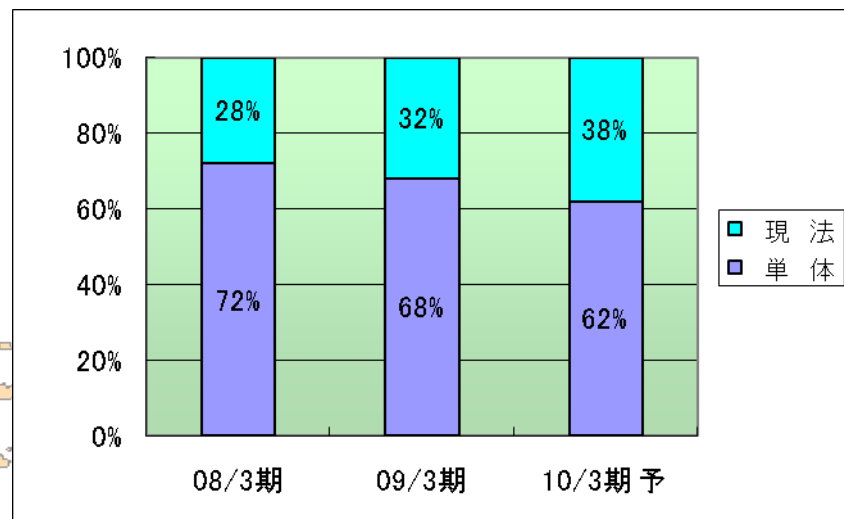
2.基本事業戦略のポイント

2-2.エリア戦略

TIのアジア代理店権を活用し、日系顧客のアジア購入窓口の地位を確立します。



背景：民生製品の海外生産シフト加速



2.基本事業戦略のポイント

2.-3.マーケット戦略

<民生>

- ・地上波の完全デジタル化に呼応し、得意とするマイコン制御で周辺ビジネスの獲得を目指します。

⇒ RFリモコン : 赤外線からRFへの切替による付加機能の拡大



⇒ iPodアクセサリ製品の拡販強化



2.基本事業戦略のポイント

<情報通信>

- ・デジタルTVチューナーに加え、Net PC、携帯電話の新規案件に対する売上拡大を目指します。

⇒ 2フィンガータッチパッド : 携帯、PC



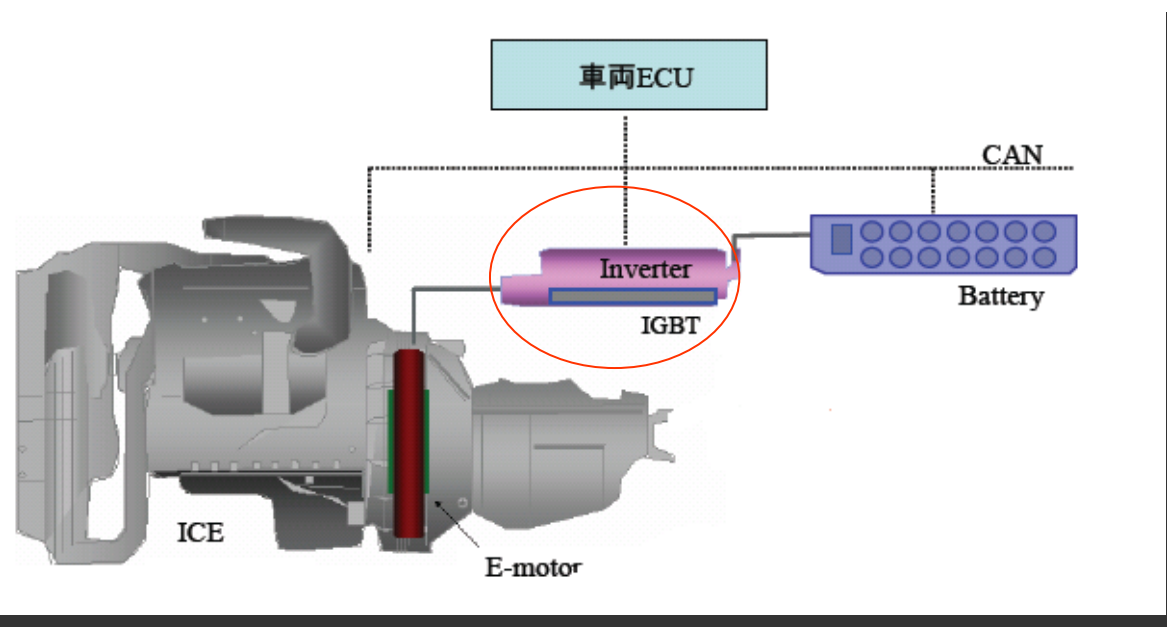
2.基本事業戦略のポイント

<車載>

- ・ハイブリットカー及び電気自動車は、本年度より急激にマーケットが広がると予想されます。

モーター制御回路及び周辺アプリケーションを含め拡販が期待出来ます。

⇒ HEVシステム製品：モーター/発電機、インバーター



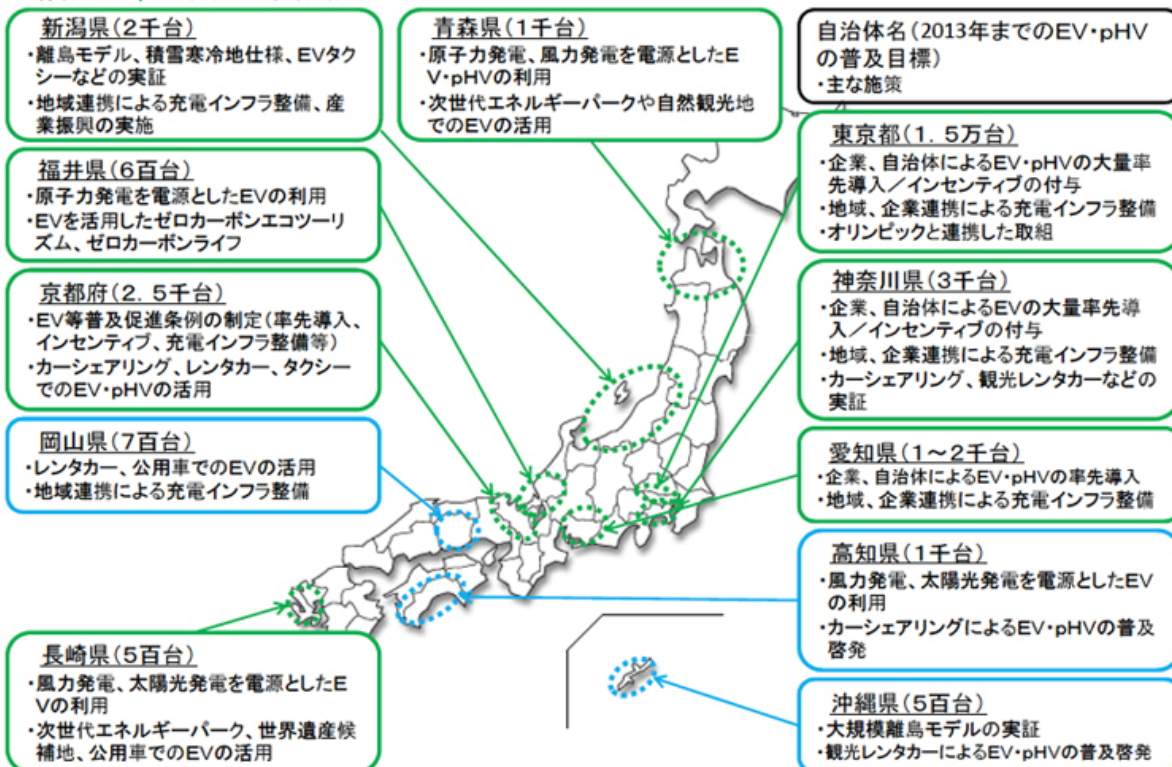
⇒ 車載カメラ：ドライバーアシストシステム（安全機能としての画像処理）

2.基本事業戦略のポイント

<車載>

⇒ 充電ステーション：急速充電器（経産省 プラグインハイブリットタウン構想）

※緑枠:EV・pHVタウン／青枠:調査地域



(出典:経済産業省)EV・pHVタウンのモデル地域(調査地域含む)と提案内容

電気自動車 (EV) 用 急速充電器

首都高パーキングエリアに電気自動車用急速充電器
(首都高速/09年3月27日ニュースリリース)



2.基本事業戦略のポイント

<産業機器(メディカル)>

- ・CTスキャナー、超音波診断装置等の医療機器が新興市場国において社会インフラとして整備されることを機に、販売の拡大を目指します。
- ・医療機器のRF化による、ネットワーク、オンライン化市場への展開を図ります。

- ⇒ 携帯電話によるヘルスケア情報管理(体重・体脂肪計、血圧計、血糖値計)
- ⇒ 医療測定・分析のRFID化

『世界の最先端エレクトロニクス技術で、お客様の創造をサポートする』



本日はありがとうございました。

今後ともご支援宜しくお願いいたします。

本資料には、業績見通し及び事業計画等も記載しております。

それらにつきましては、作成時点における経済環境や事業方針などの一定の前提に基づいて作成しております。

従って、実際の業績は、様々な要素によりこれらの業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おきください。

資料に関する問い合わせ先
株式会社アムスク
IR担当: 森/奥原
TEL: 0422-54-6186
mail: ir@amsc.co.jp